

ゆかいな仏教

橋爪大三郎・大澤真幸著

葬式仏教に代表されるように、仏教にはどこか暗くて寂しいイメージが伴う。

博覧強記の社会学者による対談を読んだら、印象は一新するだろう。キリスト教のような一神教では、神は超越的存在で、人間は、神の言葉を信じるだけの不完全な存在だ。これに対して、人間は、神の力を借りなくても、修行し、自分の

力だけで完璧な人間＝仏（ブツダ）になれる、という信念が仏教というのだ。

もちろん、人間には「生老病死」という四苦があり、人生は思うにまかせない。けれども、仏教は、苦をマイナス視しない。死や病氣をおそれず、勇気をもって年をとろう、という前向きな教えというから明るい。

大澤の鋭い突っこみを、橋爪がイチロー選手のように広角打法で打ち返す。これまたゆかいだ。（サンガ新書、840円）（鵜）